

# 幸福実現NEWS

党員  
限定版  
第38号

THE HAPPINESS REALIZATION NEWS

発行所 幸福実現党本部 〒107-0052 東京都港区赤坂 2-10-8 TEL.03-6441-0754  
©幸福実現党本部 2012年

## 東京都知事選に “尖閣上陸ロッカー” トクマ氏を擁立!

幸福実現党は、石原慎太郎氏の辞職に伴い行われる  
東京都知事選(11月29日告示、12月16日投開票)に  
党青年局長であるトクマ氏を擁立することを決めました。



魚釣島ではホウキをギター代わりに、憲法9条改正がテーマの「I LOVE ZIPANG」を熱唱。

写真提供：園田ヒデト

トクマ氏といえは9月18日、国有化後の尖閣諸島・魚釣島に初めて上陸した日本人。その経緯について、トクマ氏はこう語ります。

**石原前都知事にも  
できなかった  
尖閣上陸を敢行!**

「8月、香港の活動家が尖閣に上陸したのに、民主党の政治家たちは『遺憾です』と繰り返すばかり。そんなとき友人から、中国漁船が尖閣に押し寄せようとしていると聞き、ここは自分が上陸して『自分の国は自分で守る』という気概を見せつけようと思った」

大川隆法党名誉総裁は10月30日に行われた「ジョーズに勝った尖閣男」ートクマとの対話で、その行動力を称賛しました。

「今回の尖閣上陸は、政治的には非常に意味のあることだった。これは、あとになるほど効いてくるというか、影響が大きくなっていくと思う。『サメのいる海を泳いで上陸した日本人がいた』という事実自体が、『吉田松陰がペリーの船に漕ぎ寄せた』というこ

とと同じような意味を持つてくる」

トクマ氏は、魚釣島の慰霊碑を掃除した際に使ったホウキを対話に持参。漁船から海に飛び込み、ホウキを右手に持っ

て泳いだものの、潮に流され思うように進めなかったことや、尖閣上陸後、船に戻ってから、船長にサメが泳ぐ海域であると知らされ絶句したというエピソードを明かしました。

また、ミュージシャンであるトクマ氏が手掛ける楽曲について名誉総裁は、「幸福実現党の政策を全部歌にして、『幸福実現党はこういうことを言っていたんだ』と思うぐらい、よく歌詞に

要約されている」と評価。音楽談義から東京、そして日本再生への秘策が語られた異色の「政治対話」は、幸福の科学の支部・拠点・精舎で開示されているほか、緊急出版され、全国書店にて発売中です。

### 都知事選主要政策を発表

都知事選への出馬にあたり、トクマ氏は主要政策を発表。「尖閣に行くと感じたことは、とにかく



### トクマ氏プロフィール

1966年、東京都生まれ。青山学院大学経済学部卒業後、単身渡米し、帰国後、トヨタ自動車に入社。その後、音楽活動に専念し、各種メディアで活躍。2012年10月、幸福実現党青年局長に就任。

国は「ほったらかし」ということ。尖閣は日本の領土なんだから、日本が実効支配を強めるべき」と力説するトクマ氏だけに、冒頭には国防を掲げています。

国防に加え重要視するのが自虐史観の排除。トクマ氏は、「政治家の弱腰外交を責めても無駄。愛国心がなくては国を守ることなんてできないし、学校教育から『俺たちの爺ちゃん』は、戦争中悪いことをいっぱいした」という自虐史観を払拭しなくてははいけない。その引け目が国難を呼び込んでいる」と分析します。

「日本を愛するからこそ、東京から変えていく」。石原前都知事にもできなかった尖閣上陸を果たした男の、熱い思いが詰まった主要政策の一部を掲載します。

## トクマ東京都知事選挙主要政策

### 【国防】

- ・パトリオットミサイルにより、首都東京の防衛体制を強化。
- ・核シェルターを兼ねた地下空間の開発。
- ・尖閣諸島寄付金を有効活用し、尖閣諸島の久場島を東京都で購入。
- ・魚釣島に構築物を建造し、東京都知事として公式に尖閣上陸を果たす。

### 【防災】

- ・木造住宅密集地域の高層ビルや耐火住宅への建て替えを支援促進。
- ・東京の電線類の地中化を進め、緊急時には道路をヘリコプターの発着に使えるようにする。

### 【交通】

- ・再拡張や滑走路延伸により、羽田空港を24時間国際空港として運用。
- ・築地市場の一部機能は築地に残すと共に、移転跡地にはヘリポートを設置。
- ・首都高速の地下化を進める。

### 【教育】

- ・都立高校から自虐史観教育を徹底排除すると共に、いじめ禁止条例を制定。

### 【五輪招致】

- ・国威発揚、経済波及効果(約3兆円)、東京の都市インフラの再構築が期待される東京五輪開催に向け、知事が先頭に立って招致する。

### 【都市計画】

- ・容積率の緩和や空中権売買の条件緩和により、東京をマンハッタンよう

な超高層都市に生まれ変わらせる。

- ・色彩あふれる街づくりを進める。

### 【美観・芸術】

- ・ミュージシャンや芸術家等が、公共空間で自由に発表できる芸術都市東京にする。
- ・希望する東京都民に携帯型ホウキを配布して街の清掃を推奨。

### 【経済・金融】

- ・新銀行東京は、未来産業型ベンチャー企業に低金利で資金を供給。
- ・新銀行東京に1兆円程度の通貨発行権を認めるよう財務省、日銀に要求。
- ・東京都として、国によるTPP(環太平洋戦略的経済連携協定)参加に向けた環境整備を行う。
- ・固定資産税の減免、特区を活用した法人税の軽減等を促進する。
- ・都知事がPR大使となって、海外で「未来都市TOKYO」の魅力を広報宣伝する。

### 【エネルギー・復興】

- ・東京の生活と産業を支える安価で安定的な電力を確保すべく、原発の早期再稼働の実現を国や地元自治体に働きかける。
- ・福島県産の産品を積極的に購入し、風評被害の払拭に貢献する。

### 【女性・高齢者】

- ・都営地下鉄各駅に託児所を設け、運営には高齢者を雇用する。
- ・高齢者の資格取得を支援し、「生涯現役都市」を構築する。

詳しくは公式サイト <http://tokma.jp/>

幸福実現党は10月26日、以下の人事を決定しました。  
役員人事 党青年局長 トクマ 積 量子・党青年局長兼女性局長は党女性局長となります。

# シリーズ 日本 再建 18

原子力工学の専門家としての立場から、民主党政権の脱原発路線に警鐘を鳴らす山名元氏を講師に招き、9月1日、幸福実現党の政策部会が開催されました。講演の一部を2回にわたり紙面掲載します。

GDP世界3位の日本は、世界で5番目のエネルギー消費国です。しかし、石炭や石油、天然ガス等のエネルギー資源の埋蔵量を熱量換算すると、世界40位でしかありません。資源を持っていないにもかかわらず、大量のエネルギーを使って大規模な経済活動を行い、豊かな生活を維持する——これが、わが国が取ってきたスタイルです。

か」ということを審議している組織のようには見えません。

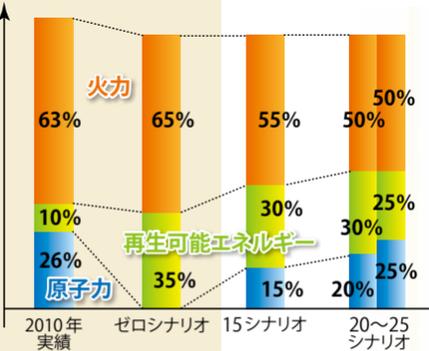
エネルギーに食料、それから防衛。これらは、「すみません、失敗しました」という時は、国が滅びる時です。つまり、国家存続の基盤であり、本来、国是に沿って戦略的に策定されるべきものです。事故により揺れる世論の下で、エネルギー政策を国民投票的に決めようとするのは「政治の放棄」だと思います。ですから、「リスク、社会便益、国民負担」の三つの視点から、「このエネルギー戦略はリスクが高いけど、便益が大きいからこれを選ぼう」とか、「便益は大きいけどリスクがあって、しかも負担が大きい。これはどうしようか」といった議論をすべきなんです。

## エネルギーは 国家存続の根幹

ところが福島事故以降、エネルギーを海外に依存し、まさに「他人の俵」で生きていくこの国が、これからどうしていくのかという議論が全く行われないうまま、「原子力が好きか嫌いか」という問いかけばかりが行われている。これは非常に恐ろしいことだと私は思っています。

エネルギー政策の見直しは、国家戦略室に設置されたエネルギー・環境会議の下で行われており、国民的議論と称する意見聴取なども実施されました。そもそも国家戦略室は菅前総理が作った組織で、この国が生きていくための戦略的なプランを作るというよりは、「従来のレジュームからいかに新しくする

これは私です。「原子力が必要だ」と言った瞬間に、「国民の敵」とインターネット上に書かれてしまつたのです。



2030年の電源構成選択肢

## 京都大学原子炉実験所教授 山名元氏に聞く

# それでも日本は 原発を止められない ① (全2回)

～混乱のエネルギー政策議論～

(やまな・はじめ) 1953年、京都府生まれ。東北大学大学院工学研究科博士課程修了。旧動力炉・核燃料開発事業団(現・日本原子力研究開発機構)で、再処理開発に従事。同事業団の主任研究員を経て、96年より京大助教授、2002年より現職。著書に『間違いだらけの原子力・再処理問題』(WAC)、『それでも日本は原発を止められない』(産経新聞出版)などがある。



## 電源ごとの役割の違い

さて、本題に入ります。日本には2億3千万キロワットの発電設備があり、そのうち原子力発電が4900万キロワットを占めています。従来はこの発電能力で、夏のピーク時には1億8千万キロワットに上る電力需要を賄ってきました。真夏でも数千キロワットの余力があったために、設備を定期点検したり、修繕したり、休ませることができたのです。

間になったから走ろうぜ」という短距離ランナーが石油火力や天然ガスなんですね。それぞれが別のプレーヤーであって、電源の組み合わせは并勘定でできるものではないんです。

## 3つのシナリオの問題

国家戦略室は2030年における電源構成として、原子力ゼロシナリオ、15シナリオ、20シナリオという3つの選択肢を提示しました(上図)。

ゼロシナリオでは原子力は0ですが、火力は65%に上り、火力シナリオと呼ぶにふさわしいものです。15シナリオは火力を少し減らして、再生可能エネルギーも頑張る、残りの部分を原子力が請け負うというシナリオ。20シナリオは原子力を積極的に入れて、火力をできるだけ下げて、再生可能エネルギーは何とか頑張れる程度のところを目指そうというものです。

そういう説明なく、「原子力ゼロ、15、25どれがいいですか」と尋ねられて、「はいゼロです」となるのは当然です。

しかし、火力発電は化石燃料の価格上昇リスク、供給が途絶えるというリスクを抱えます。

また、再生可能エネルギーは天候次第で供給が不安定ですし、発電の増強にはインフラ投資が必要で、再生可能エネルギーの普及に向けて「固定価格買取制度」が始まりましたが、エネルギーというものは国の根幹ですから、不確実なものにあまり軸足を乗せすぎるのは危険であるかと私は考えます。

幸福の科学グループ創始者 兼 総裁 大川隆法 幸福実現党創始者 兼 党名管総裁

絶賛発売中! このままでは、日本という国はなくなる。3年前から国防と経済の危機を警告してきた国師がいま、あらためて正論を訴える。

**国を守る宗教の力** 価格1,575円(税込)

9月18日、この男はなぜ尖閣に上陸したのか!?

**ジョーズに勝った尖閣男** トクマとの政治対談 価格1,470円(税込)

アイ・ラブ・ジパング! 日本を守るために尖閣に上陸したのは、石原前都知事でも野田首相でもなく、ミュージシャン・トクマだった!

幸福の科学出版 <http://www.irhpress.co.jp/> 0120-73-7707 FAX.03-5573-7701 1,470円以上 国内送料無料 幸福の科学出版の書籍はホームページ、電話、FAXでもご注文いただけます。 発行 幸福実現党